販売用資料
月次報告書

ファイブスター日経225ニュートラルファンド

追加型投信／国内／株式／特殊型（絶対収益追求型）

作成基準日：2026年10月30日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

運用実績等

ファンド概要	
設定日	2023/04/21
信託期間	原則 無期限
決算日	毎年1月15日
信託報酬率	0.99% （税抜　年0.90%）
基準価額	9,450円
純資産総額	82,616,269円

※決算日が休業日の場合は翌営業日となります。

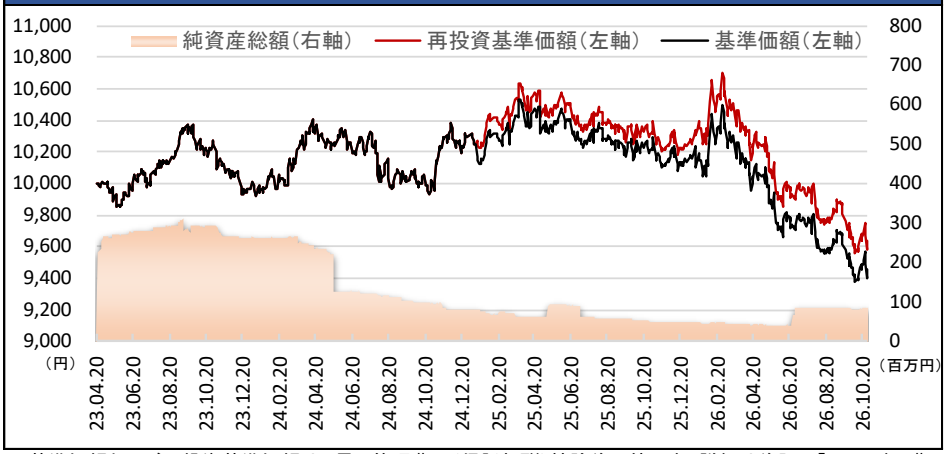
期間別騰落率	
過去1ヶ月	−0.87%
過去3ヶ月	−3.63%
過去6ヶ月	−5.72%
過去1年	−6.51%
過去3年	−5.96%
設定来	−3.63%

※税引前分配金を全額再投資したものとして計算しております。

分配実績（1万口当たり、税引前）	
設定来累計	200円
第1期(2024年01月15日)	0円
第2期(2025年01月15日)	100円
第3期(2026年01月15日)	100円

※直近3期分

基準価額と純資産総額の推移 （設定来：日次）



※基準価額および再投資基準価額は、運用管理費用（信託報酬）控除後の値です。詳細は後記の「ファンドの費用」をご覧ください。

※再投資基準価額の推移は、税引前分配金を全額再投資したものとして算出しているため、実際の受益者利回りとは異なります。

資産構成	
MASAMITSU日経225ニュートラルマザーファンド	98.24%
現金など	1.76%
合計	100.00%

※マザーファンドの受益証券の組入比率は、通常の状態で高位に維持することを基本としますが、市況動向および資金動向などにより、異なる場合があります。また、追加設定の計上タイミングと投資対象の購入処理等のタイミングのずれ等により、比率が100%をこえる場合があります。

MASAMITSU日経225ニュートラルマザーファンドの状況

組入上位5銘柄　組入銘柄数：54

	銘柄コード	銘柄名	業種等	純資産比
1	6857	アドバンテスト	電気機器	8.13%
2	9983	ファーストリテイリング	小売	7.03%
3	9984	ソフトバンクグループ	情報通信	6.27%
4	8035	東京エレクトロン	電気機器	4.44%
5	6861	キーエンス	電気機器	3.64%

資産別構成比率（純資産比）	
組入株式の時価総額（A）	86.13%
日経225先物の売建て（B）	−77.03%
カバー率（B）÷（A）	
89.43%	

※カバー率とは、組入株式の時価総額に対する日経225先物の売建て比率です。

日経225指数の構成比率を超過する組入上位5銘柄

	銘柄コード	銘柄名	業種等	ポートフォリオの構成比率（A）	日経225指数の構成比率（B）	超過幅（A）−（B）
1	6861	キーエンス	電気機器	4.23%	0.42%	**+3.81%**
2	1801	大成建設	建設	2.41%	0.12%	**+2.30%**
3	8766	東京海上ホールディングス	保険	2.83%	0.69%	**+2.13%**
4	6532	ベイカレント	サービス	2.56%	0.63%	**+1.93%**
5	7269	スズキ	輸送用機器	2.16%	0.45%	**+1.71%**

※ポートフォリオの構成比率とは、マザーファンドの作成基準日における組入株式の時価総額に対する比率です。

※上記内容は、マザーファンドの組入銘柄の紹介を目的として作成しましたが、記載銘柄の推奨を行うものではありません。また、組入銘柄や構成比率などの内容は、市場動向などを勘案して随時変更されます。作成基準日における情報を元に作成していますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。業種の記載は、東証33業種をもとに分類しています。

ファイブスター投信投資顧問　あなたにベストな資産運用を。

※ 後述の「当資料のご留意点等」を必ずご参照下さい。

ファイブスター日経225ニュートラルファンド

追加型投信／国内／株式／特殊型（絶対収益追求型）

作成基準日：2026年10月30日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

マンスリーコメント

市況概況

日本株については、日経平均株価-5.2%、TOPIX-3.5%、東証グロース市場250指数-2.5%となりましたが、数字が示すより雰囲気が悪い印象でした。

東証33業種中、値上がりセクター17、値下がりセクター16と、5割強のセクターが値上がりしましたが、TOPIX構成銘柄1,668社のうち、上昇578銘柄、下落1,082銘柄と、個別では65%の銘柄が下落しました。

上旬は米ハイテク株高や米マイクロンの決算・業績見通しなどを受け、AI・半導体関連株が上昇した一方、利益確定売りや中東情勢への警戒、米株安などが重荷となりました。その後、米半導体株安や中東情勢の緊迫化、米利上げ観測の高まりを背景に、AI・半導体関連株を中心に売りが広がりました。後半には、米株高や米スペースXの好決算を受け、日本株は反発したものの、米半導体関連株の下落や中東情勢の緊迫化が重荷となり、再び下落しました。その後、韓国SKハイニックスの決算やアドバンテストの業績予想上方修正が追い風となり、持ち直しの動きがみられたものの、月末は米ハイテク株安に加え、AI過剰投資への懸念を背景にAI・半導体関連株を中心に売りが広がりました。

ファイブスター日経225ニュートラルファンド

追加型投信／国内／株式／特殊型（絶対収益追求型）

作成基準日：2026年10月30日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

マンスリーコメント

運用概況

当月の当ファンドの基準価額は、前月末比-0.87%の下落率となりました。

まず、月中の日本株の動きについては、月初では日経平均株価で60,000円から70,000円のレンジで上にも下にも大きく突き抜けない展開を予想していたのに対し、10月実績（小数点以下切り捨て）は、安値61,462円、高値70,798円、終値63,290円と、概ね想定通りの値動きとなりました。

当月の日本株のセクター別パフォーマンスは、騰落率上位が、サービス業、鉱業、医薬品で、非鉄金属、機械、銀行業がワーストパフォーマーとなりました。スタイル別に見ると、小型グロースと大型バリューが相対的に強いという珍しい展開の中で、低ベータ（市場全体の値動きに対する感応度）、低PER（株価収益率）、低PBR（株価純資産倍率）、高配当利回りが優位となり、4月から6月までのAI・半導体優勢の展開とは真逆の動きになりました。

その中で、当ファンドにおいては、月中に保有があった70銘柄のうち、上昇30銘柄（上昇銘柄比率42.9%）、下落40銘柄と、日経平均株価（上昇100銘柄、上昇銘柄比率44.4%、下落125銘柄）との比較で、やや低い比率となりました。それに加えて、日経平均株価構成ウエイトの高い銘柄群の中で、ソフトバンクグループ、東京エレクトロンは足を引っ張り、アドバンテストはリターンに貢献するといった形で、特徴の捉えづらい難しい運用環境下にありました。その結果、マイナスリターンを余儀なくされました。

ファイブスター日経225ニュートラルファンド

追加型投信／国内／株式／特殊型（絶対収益追求型）

作成基準日：2026年10月30日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

マンスリーコメント

今後の運用方針

米国中間選挙での共和党敗北の可能性とその後のデータセンター投資抑制リスクを背景に、最近まで弱い株価推移が続きましたが、同選挙を通過した後は、結果の如何を問わず、方向性がクリアになることによる株価の反発を予想します。

AIデータセンター関連銘柄については、将来の不透明性が解消される可能性は当分期待できず、回復する局面があったとしても長続きしないと思われます。一方で、今年に入って活気づいたAIデータセンター関連銘柄の裏で、見過ごされている銘柄・セクターが少なからず残されていると考えられます。長期金利上昇で大きく値を下げた後に同金利低下の恩恵を受けられる不動産関連銘柄が例として挙げられます。年末にかけて、そうした銘柄の活躍と、AI関連銘柄の振れ幅の大きい値動きの合成で、日経平均株価は7万円前後まで戻ることはあっても、それを有意に超える水準の達成は難しいと考えられます。

以上を勘案して、当月は、ドル円150円から160円を前提に、日経平均株価で60,000円から70,000円のレンジで上にも下にも大きく突き抜けない展開を予想します。

今後の運用に際しては、前月から個別銘柄重視のスタンスを鮮明にしております。2022年に勃発したウクライナ戦争以降、世界はインフレ基調を強め、その反映として大型株主導の展開が鮮明になってきました。その中で、中小型株を含む幅広い銘柄をユニバース（投資対象銘柄の母集団）とする当ファンドのリターン創出力は相対的に減退し、時に市場に追随する形での後追い的なスタンスを迫られるなどして、アクティブファンドとしての強みをなかなか発揮し難い状況に追い込まれました。

しかし、株式市場を巡る環境は劇的に変化し、今や、今後の継続的なGDP成長と株価上昇を同時に期待できる素地が整いつつあると感じます。中長期的に、日経平均株価20万円、TOPIX10,000ポイントといった極めて高い数値の達成も夢ではなくなっているのが現在の状況と認識しています。そのような中では、市場全体の上昇率を有意に超える有望銘柄が多く誕生するものと思われます。

市場全体の動きをしっかりと確認し、マクロ経済分析からのトップダウン的アプローチも重視しつつ、そうした銘柄の発掘と、その長期的保有をコアとした方向性に、運用を意識的に変えて参ります。当月は、その方針が一部ではありますが結実し始め、ポートフォリオ上位銘柄のリターン貢献が見られ始めました。今後も、個別銘柄重視のスタンスを堅持し、中長期的なアルファリターン（市場平均を上回る超過収益）の創出に全力を挙げて参ります。

ファイブスター日経225ニュートラルファンド

追加型投信／国内／株式／特殊型（絶対収益追求型）

作成基準日：2026年10月30日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

ファンドの特色・特徴

☆☆☆☆☆ ファンドの目的

当ファンドは、主としてマザーファンドの受益証券への投資を通じて、原則、日経平均株価（日経225）採用銘柄（採用予定の銘柄を含みます。）の株式に投資するとともに、日経225先物の売建てを行うことにより、株式市場の変動リスクの低減を図りつつ、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

☆☆☆☆☆ ファンドの主な特色

● 特色1

日経225採用銘柄の株式を投資対象に、株価の上昇余地が大きいと目される銘柄の組入れを行います。

日経225全ての構成銘柄について「成長性」、「収益性」、「安定性」の観点からの網羅的なボトムアップリサーチ（業績や財務分析、成長性などの企業調査）を行い、マクロ経済や業種（セクター）別の動向、個別企業のイベントや株式需給なども考慮した上で、株価の上昇余地が大きいと目される50～100銘柄程度※の組入れを行います。また、迅速な保有銘柄の入れ替えがリターン向上に資するとの考え方の下、日次ベースでポートフォリオの最適化を目指します。

※ただし、市場環境やその他の要因により今後変更する可能性があります。

● 特色2

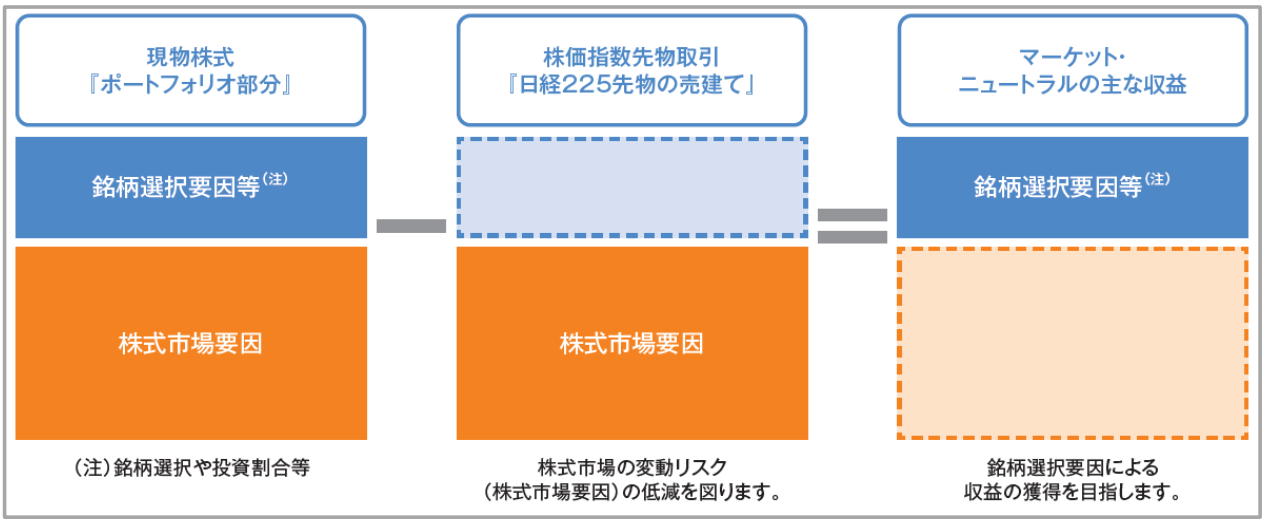
組入株式の時価総額と同程度※1の日経225先物の売建てを組み合わせる『マーケット・ニュートラル戦略』により、株式市場の変動リスクの低減を図ります。

当ファンドにおけるマーケット・ニュートラル戦略とは、日経225採用銘柄の株式に投資するとともに、日経225先物の売建てを組み合わせることにより、株式市場の変動リスクを低減しつつ、銘柄選択要因による収益の確保をめざす運用手法をいいます。

※1 平均90%程度を目安とします。

※上記の特色1、及び、特色2に関して、資金動向、市況動向、その他の要因等によっては、上述のようなファンドの特色に従った運用ができない場合があります。

『マーケット・ニュートラル戦略』の収益のイメージ



※上記はイメージ図であり、当ファンドの運用成果等について示唆あるいは保証するものではありません。

ファイブスター日経225ニュートラルファンド

追加型投信／国内／株式／特殊型（絶対収益追求型）

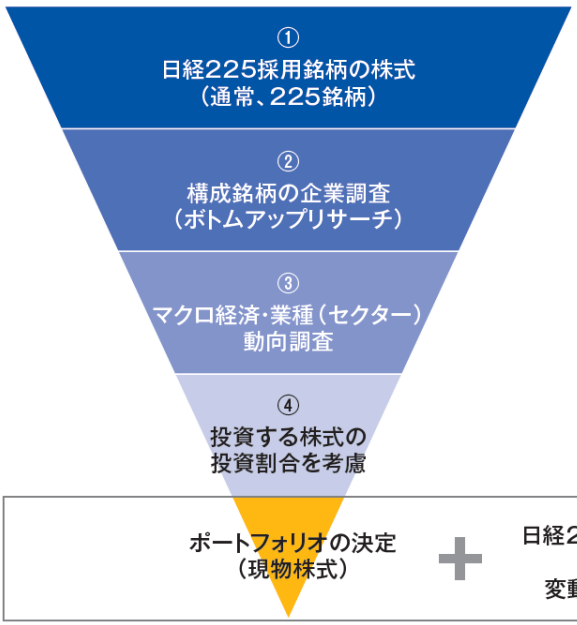
作成基準日：2026年10月30日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

ファンドの特色・特徴

☆☆☆☆☆ 投資プロセス



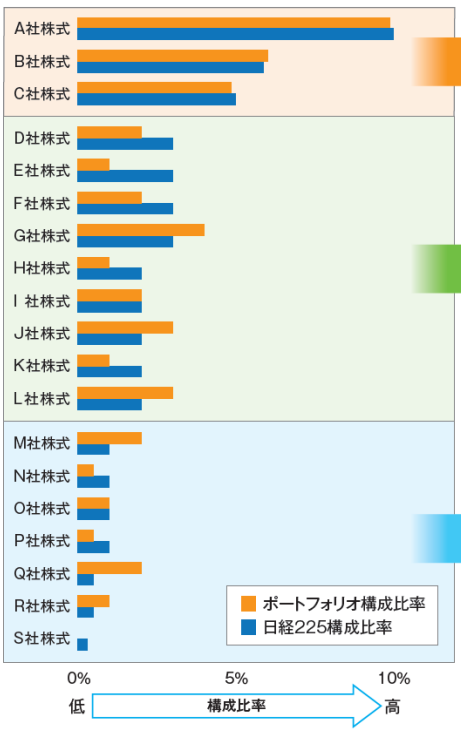
①日経225採用銘柄（採用予定の銘柄を含みます。）の全株式を投資対象とします。

②まず、日経225の構成銘柄はわずか225銘柄であることから、その全銘柄の企業調査（ボトムアップリサーチ）を行います。

③その上で、主要統計などの重要イベント、業種（セクター）動向の変化、個別企業の株式需給動向などを考慮して、50～100銘柄を最終的な投資対象として抽出します。

④抽出した各銘柄の投資割合について、基本的には株価上昇余地の観点を重視するほか、一部値嵩（ねがさ）株などの構成比率がきわめて高いという日経225固有の特性を考慮して決定します。

ポートフォリオ構築の運用アプローチ



■日経225の構成比率がきわめて高く、指数変動率の寄与度がきわめて大きい銘柄については、基本的には保有を心掛け、日経225の構成比率を十分に意識して投資割合を決定します。

▶▶日経225の構成比率が大きい銘柄については、指数対比で負けないことを意識

■日経225の構成比率が高く、指数変動率の寄与度が大きい銘柄については、日経225の構成比率とポートフォリオの構成比率を大きく乖離させたり、組入れを行わない場合もあります。

▶▶日経225の動きと銘柄選択要因による収益追求のバランス感を重視

■日経225の構成比率が低く、指数変動率の寄与度が小さい銘柄については、日経225の構成比率にとらわれず、大胆に組入れを行います（組入れを行わない場合も含みます。）。

▶▶主に銘柄選択要因による収益を積極的に追求

※ 上記は当ファンドの運用アプローチの考え方のご理解を深めていただくためのイメージ図です。

ファイブスター日経225ニュートラルファンド

追加型投信／国内／株式／特殊型（絶対収益追求型）

作成基準日：2026年10月30日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

投資リスク等

基準価額の変動要因

信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

当ファンドは投資信託証券（マザーファンド）への投資を通じて、実質的に日本の株式等ならびにこれらに関連する派生商品（先物取引等）などの値動きのある金融商品に投資しておりますので、当ファンドの基準価額は変動します。受益者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。

当ファンドおよび当ファンドが投資する投資信託証券の基準価額を変動させる要因の主なものは、以下の通りです。

有価証券の価格変動リスク

当ファンドは、実質的に国内の株式等を主要投資対象としますので、当ファンドの基準価額は当該株式等の価格変動の影響を大きく受けます。株式等の価格は、国内外の政治・経済情勢、発行会社の業績・財務状況の変化、市場における需給・流動性による影響を受けて変動します。従って、株式等の予想外の価格変動があった場合には、当ファンドに重大な損失が生じる場合があります。当ファンドでは、中小型株式に投資する場合がありますが、中小型株式は、大型株に比べ株価が大幅に変動することがあります。

流動性リスク

市場取引量の急激な増大、市場規模の縮小、市場の混乱等の影響により、注文時に想定していた価格と大きく異なる価格で売買が成立する可能性があります。従って、組入れ有価証券等の予想外の流動性があった場合には、当ファンドに重大な損失が生じる場合があります。一般に中小型株式は、市場規模や取引量が少ないため、このような状況に陥る可能性が高い場合があります。

信用リスク

当ファンドは、投資信託証券（マザーファンド）への投資を通じて、実質的に投資している有価証券の発行体において、経営不振、その他の理由により債務不履行が発生した場合、またはそうした事態が予測される場合等には、当該発行体が発行する有価証券の価格は大きく下落し、基準価額が値下がりする場合があります。

解約による資金流出に伴うリスク

一部解約金の支払資金を手当てするために、当ファンドが投資する投資信託証券（マザーファンド）において、組入れている有価証券等を大量に売却する場合があります。この場合、市場規模や市場動向によっては、有価証券等を当初期待された価格で売却できない場合があり、当ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

※（ご注意）以上は、基準価額の主な変動要因であり、変動要因はこれに限られるものではありません。

ファンド固有の留意点

当ファンドでは、株式市場の変動リスクの低減を図るために、マザーファンドを通じて日経225先物取引の売建等を行いますが、完全に株式市場の変動リスクを排除できるものではありません。また225先物取引の価格が、理論価格から大きく乖離する場合があり、当該先物価格が理論価格に対して大幅に割高となった場合は、ファンドの基準価額の下落要因となります。

日経平均株価（日経225）の著作権等について

① 「日経平均株価」は、株式会社日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」自体及び「日経平均株価」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しております。
② 「日経」及び「日経平均株価」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て株式会社日本経済新聞社に帰属しております。
③ 当ファンドは、投資信託委託業者等の責任のもとで運用されるものであり、株式会社日本経済新聞社は、その運用及び受益権の取引に関して、一切の責任を負いません。
④ 株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延又は中断に関して、責任を負いません。
⑤ 株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」の構成銘柄、計算方法、その他「日経平均株価」の内容を変える権利及び公表を停止する権利を有しております。

ファイブスター日経225ニュートラルファンド

追加型投信／国内／株式／特殊型（絶対収益追求型）

作成基準日：2026年10月30日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

ご留意点等

その他のご留意点

■ 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
■ 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響をおよぼす可能性や、換金の申し込みの受付けが中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。
■ 当ファンドは、預金や保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には、投資者保護基金の対象とはなりません。
■ 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンド購入価額によっては、分配金の一部または全部が実質的には元本の一部払戻に相当する場合があります。

リスクの管理体制

運用リスクを管理する部門では、信託財産の運用成果とその内容について客観的に把握するため、定期的にパフォーマンス評価を実施するとともに、流動性リスクを含む運用リスクの状況、法令、主な投資制限等の遵守状況及び運用事務状況をモニタリングし、定期的にコンプライアンス委員会に報告します。

■ パフォーマンスの考査 …… ファンドの運用状況については、パフォーマンス分析および評価の結果がコンプライアンス委員会に報告され、審議を行います。
■ リスクの管理 …… コンプライアンス上のリスク、委託会社の業務において発生しうるあらゆるリスクについて、コンプライアンス委員会に報告され、審議を行います。

分配方針

年1回（1月15日。ただし、休業日の場合には翌営業日とします。第一計算期間末は2024年1月15日です。）決算を行い、以下の方針に基づいて収益の分配を行います。

■ 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
■ 分配金額は、委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配を行わないこともあります。
■ 収益分配に充てず信託財産内に留保した利益について、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、運用を行います。

※将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。

当資料のご留意点

■ 当資料は、ファイブスター投信投資顧問株式会社が作成した販売用資料であり、法令に基づく開示書類ではありません。
■ 当資料に記載の過去の運用成績、運用内容は将来の運用成果、運用内容を保証あるいは示唆するものではありません。
■ 当資料は、原則として表示桁数未満を 四捨五入しているため合計の数値とは必ずしも一致しません。
■ 当資料は、ファイブスター投信投資顧問株式会社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。記載された市況や見通し等は作成日時点のものであり、将来の株価等の動きやファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合があります。
■ 当資料をご覧いただくにあたっては、「投資リスク」、「その他の留意点」、及び「分配方針」を必ずご確認ください。
■ お申込の際は、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」を必ずご確認のうえ、お客様ご自身でご判断ください。

ファイブスター日経225ニュートラルファンド

追加型投信／国内／株式／特殊型（絶対収益追求型）

作成基準日：2026年10月30日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

お申込メモ

購入単位	1口または1円単位として販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込日の基準価額とします。
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	1口または1円単位として販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認ください。
換金価額	換金（解約）受付日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金（解約）受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として営業日の午後3時30分までに、販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、1億口または1億円以上の換金（解約）請求は、正午までにお願いします。
購入・換金・申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金（解約）の受付を中止すること、および既に受付けた購入・換金（解約）申込みの受付を取消す場合があります。
信託期間	原則として無期限（2023年4月21日設定）
繰上償還	委託者は、純資産総額が10億円を下回ったときには、受託者と合意の上、信託期間を繰上げて償還させる場合があります。また、この信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が生じた場合には、受託者と合意の上、信託期間を繰上げて償還させることができます。
決算日	年1回。（1月15日。ただし、休業日の場合には翌営業日とします。）
収益分配	年1回、毎決算時に収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。
信託金の限度額	ファンドの信託金の限度額は1兆円です。
公告	電子公告により行ない、委託会社のホームページに掲載します。 ホームページアドレス　https://www.fivestar-am.co.jp なお、やむを得ない事由により公告を電子公告によって行なうことができない場合には、公告は日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	原則として、毎年1月15日（休日の場合は翌営業日）および償還時に投信法上の運用報告書を作成します。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用があります。 益金不算入制度の適用はありません。

ファイブスター日経225ニュートラルファンド

追加型投信／国内／株式／特殊型（絶対収益追求型）

作成基準日：2026年10月30日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込日の基準価額に申込口数を乗じて得た額に、上限を3.3%（税抜3.0%）として、販売会社が定める料率を乗じて得た額とします。購入手数料は、販売会社による商品・投資環境の説明および情報提供、並びに販売の事務等の対価です。
信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）

ファンドの日々の純資産総額に**年0.99%（税抜 年0.90%）**の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎計算期間を最初の6ヵ月とその翌日から計算期間末までに区分した各期間の末日または信託終了のときに、信託財産から支払われます。

当ファンドの運用管理費用（信託報酬）（年率）		税込年0.99%（税抜年0.90%）	運用管理費用＝日々の純資産総額×信託報酬率
配分	委託会社	0.45%	委託した資金の運用の対価
	販売会社	0.40%	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
	受託会社	0.05%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価

※表中の率は税抜きです。別途、消費税がかかります。

その他の費用・手数料

以下の費用・手数料は、信託財産中から支払われます。

法定書類の作成・印刷・交付にかかる費用	有価証券届出書、有価証券報告書および臨時報告書（これらの訂正に係る書類を含みます。）目論見書、運用報告書等の作成、印刷および提出に係る費用
監査費用	監査法人等に支払う信託財産の財務諸表の監査に要する費用
信託財産の計理業およびこれに付随する業務に係る費用	信託の計理業務（設定解約処理、約定処理、基準価額算出、決算処理等）およびこれに付随する業務（法定帳票管理、法定報告等）に係る費用
信託事務の処理に関する費用	信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、信託財産において資金借入をした際の利息
組入有価証券取引に伴う費用	組入有価証券の売買の際に仲介人に支払う売買委託手数料等
公告に係る費用	信託の受益者に対して行なう公告に係る費用ならびに信託約款の変更または信託契約の解約に係る事項を記載した書面の作成、印刷および交付に係る費用
法律顧問および税務顧問に対する報酬および費用	法律顧問ならびに税務顧問等に支払う信託財産に関する法律・税務に対する助言等の費用

※これらの費用等は、運用の状況等により変動するため、料率、上限率等をあらかじめ表示することが出来ません。

ファイブスター日経225ニュートラルファンド

追加型投信／国内／株式／特殊型（絶対収益追求型）

作成基準日：2026年10月30日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

ファンドの関係法人

委託会社：　信託財産の運用指図等を行います。

ファイブスター投信投資顧問株式会社
金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第2266号
一般社団法人資産運用業協会会員

委託会社の照会先

ホームページアドレス
https://www.fivestar-am.co.jp/
お客様デスク
03-3553-8711
（受付時間：委託会社の営業日の午前9時～午後5時まで）

受託会社：　信託財産の保管・管理業務等を行います。

三井住友信託銀行株式会社
（再信託受託会社：株式会社日本カストディ銀行）

販売会社：　受益権の募集・販売の取扱い、換金（解約）事務、換金代金・収益分配金・償還金の支払い等を行います。

販売会社の名称等

お取り扱い 販売会社一覧		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第3283号	○	○		○
岡地証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第5号	○	○		
スターツ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第99号	○	○		
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第131号	○		○	○
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○		○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
株式会社SBI新生銀行（委託金融商品取引業者マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
株式会社イオン銀行（委託金融商品取引業者マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○			
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○

※加入している金融商品取引業協会を○で表示しています。
※上記の表は、ファイブスター投信投資顧問株式会社が基準日時点で知りうる信頼性が高いと判断した情報等から細心の注意を払い作成したものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。